

平成28年度

「運営に関する計画」



いまみや小中一貫校

大阪市立新今宮小学校・今宮中学校

平成28年4月15日

校訓

新今宮小学校

- ・すすんで
- ・なかよく
- ・すこやかに

今宮中学校

- ・自主
- ・協調
- ・健康

1. 学校教育目標

「未来を創る地球人（ちきゅうびと）を育てる」

- | | |
|---|---|
| 1. 自ら学び自立できる人間を形成する。 <ul style="list-style-type: none">(1) 自分で判断し、行動できる人間(2) 責任感が強く、絶えず努力する人間(3) 自分を見つめ、自らを律することのできる人間(4) 心身共に健康で安全な生活ができる人間 | 2. 互いに助け合い、より良い生活のできる集団を育成する。 <ul style="list-style-type: none">(1) 互いに助け合い、他人の痛みがわかる仲間(2) 互いに侵すことなく、侵さない仲間(3) 力を合わせ、住みよい環境が作れる仲間 |
|---|---|

2. 重点目標

人間尊重の教育を基盤とし、児童生徒に集団の一員としての自覚を持たせ、知・徳・体の調和のとれた人間形成に努める。

いまみや小中一貫校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

平成27年4月1日に大阪市で三番目の施設一体型小中一貫校として、開校したばかりである。

本校は西成区北東部にあり学校周辺の環境問題、社会的な問題等を多く抱えている。その中にあっても子どもたちは逞しく生きている。とは言え、生活の状況が厳しい子どもたちもまた多い。それだけに生活していくことが優先され、学習は二の次になりがちである。また、社会経験・体験が乏しい子どもも多い。

加えて、全市募集により校区外からの児童生徒が少なからず転入学してきたことによる影響については未知の部分も多く、学力について、あるいは人間関係についてなど様々な願いを持ってきていると思われる。臨機応変で幅広い対応が求められる。

中期目標

【視点 学力の向上】

本校の全市募集リーフレットに記載したように「交流」「挑戦」「体験」を核とした学力向上の取り組みを行う。

○ ICT機器を活用した授業を行い、多種多様な交流を通して思考力・判断力・表現力を育てる。

→ 思考力・判断力・表現力を高められるようICTを活用し、年度末の児童生徒アンケートにおいて「ICT機器を活用した授業は楽しい」「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」と答える児童生徒の割合をそれぞれ75%以上にする。

(カリキュラム改革関連) (グローバル化改革関連)

○ 児童生徒各自の興味関心に応じた「挑戦」を推進する。

→ 自ら学ぶ姿勢をもつ児童生徒を育成し、年度末の児童生徒アンケートにおいて「目標に向かって、がんばることができた」と答える児童生徒の割合を75%以上にする。

(カリキュラム改革関連)

○ 1年生からの英語学習に取り組み、体験を通してコミュニケーションツールとして活用していくとする意欲を持った子どもの育成を図る。

→ 1年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し、児童生徒アンケートの結果で、75%以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。

(カリキュラム改革関連) (グローバル化改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

本校の全市募集リーフレットに記載したように「みんなに優しいUNIVERSALな学校」「先進のGLOBALな授業」「一人一人の違いを大切にするDIVERSEな学級」に関わる取り組みを行う。

- 研究部の中に「道徳担当」を設置し、道徳教育を推進する。
→ 道徳教育全体計画別葉を作成し、すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また、道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し、実践報告をもとに研修会を毎年、実施する。
（カリキュラム改革関連）
- いまみや小中一貫校の特色を生かし、小中での児童・生徒の異学年交流を行い、高学年児童・中学校の生徒の自己有用感を高め、低学年の児童のロールモデルとなるような取り組みを構築する。また、部活動を推進し、児童生徒の豊かな感性・情操を養うと共に小中の交流、地域との交流も進める。
→ 小中合同の学校行事を実施し、児童・生徒アンケートの「学校生活で、自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を80%以上めざす。
（マネジメント改革関連）
- 区役所、地域と連携した防災教育を推進する。
→ 毎年小中連携した防災教育を実施すると共に区役所、地域等と連携した防災訓練を実施する。
（カリキュラム改革関連）（ガバナンス改革関連）
- 「みんなに優しいUNIVERSALな学校」づくりを推進する。
→ 每年度末の教職員アンケートで「学級・学年・学校のユニバーサルデザイン化」が「進んでいる」と答える割合を75%以上にする。
（マネジメント改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において、平均値を大阪市平均値より上にする。
（カリキュラム改革関連）
- 每年度末の児童生徒アンケートにおいて、「毎日、起きる時間や寝る時間がほぼ決まっている」に対して、肯定的な回答の割合を75%以上にする。
（カリキュラム改革関連）

2. 中期目標達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 思考力・判断力・表現力を高められるよう I C T を活用し、年度末の児童生徒アンケートにおいて、1～4年生では「I C T 機器を活用した授業は楽しい」、5～9年生では「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」に対して、肯定的な回答の割合をそれぞれ 70 %以上にする。 (カリキュラム改革関連) (グローバル化改革関連)
- ② 自ら学ぶ姿勢を持つ児童生徒を育成し、年度末の児童生徒アンケートにおいて「自分で目標を定め、目標に向かって、がんばることができた」に対して、肯定的な回答の割合を 70 %以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- ③ 1年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し、児童生徒アンケートの結果で、70 %以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。 (カリキュラム改革関連) (グローバル化改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 道徳教育全体計画別葉を作成し、すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また、道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し、実践報告をもとに研修会を今年度も実施する。 (カリキュラム改革関連)
- ② 小中合同の学校行事を実施し、児童・生徒アンケートの「学校生活で、自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を 75 %以上をめざす。 (マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において、小学校は走力に関する結果を、中学校はすべての結果を大阪市平均値に近づける。 (カリキュラム改革関連)
- ② 年度末の児童生徒アンケートにおいて、「起きる時間や寝る時間が決まっていて、健康に気を付けて生活をしている」に対して、肯定的な回答の割合を 50 %以上にする。 (カリキュラム改革関連)

3. 本年度の自己評価結果の総括

いまみや小中一貫校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった		

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 思考力・判断力・表現力を高められるよう I C T を活用し、年度末の児童生徒アンケートにおいて、1～4年生では「I C T 機器を活用した授業は楽しい」、5～9年生では「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」に対して、肯定的な回答の割合をそれぞれ 70 %以上にする。</p> <p style="text-align: center;">(カリキュラム改革関連) (グローバル化改革関連)</p> <p>② 自ら学ぶ姿勢を持つ児童生徒を育成し、年度末の児童生徒アンケートにおいて「自分で目標を定め、目標に向かって、がんばることができた」に対して、肯定的な回答の割合を 70 %以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 1年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し、児童生徒アンケートの結果で、70 %以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。</p> <p style="text-align: center;">(カリキュラム改革関連) (グローバル化改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【I C T を活用した教育の推進】</p> <p>電子黒板やタブレット等、I C T を学習活動で活用し、自分の考えをまとめたり、説明したりする力を高める。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T 機器の活用回数を全活動時間の 20 %以上にする。 ・ 年間計画を作成し、実践研修会と学校公開を開催する。 	
<p>取組内容②【自主的な学習習慣の向上】</p> <p>漢検・数検・英検等各種検定に挑戦したり、各自の苦手な学習を克服したりする「チャレンジタイム」や自主学習を行う「放課後チャレンジ教室」（小学生対象）、元気アップ事業を活用した「テスト前学習会」「サタディースタディ」（中学生対象）を設定し、基礎学力の定着に向上が見られるようとする。また、児童生徒自身が目標を設定し、目標達成のために粘り強く努力できる環境を整える。</p> <p style="text-align: center;">(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生から9年生までの5学年で、朝の時間帯などを活用し、各自年間 	

20時間以上、チャレンジタイムを実施する。漢検・数検・英検等の検定情報を収集し、児童生徒が目標設定しやすくなるよう、掲示や提示の方法を工夫する。放課後の時間帯を活用した自主学習で、児童生徒が主体的に自主学習に取り組める体制を作り、年度末の児童生徒アンケートで「自分で目標を定め、目標に向かって、がんばることができた」と答える児童生徒の割合を70%以上にする。

取組内容③【外国語活動・英語教育の充実】

実践を通して9年間を見通した小学校1年生からの英語教育カリキュラムを整備し、小中連携の新しい形を模索する。 (グローバル化改革関連)

指標 ・ 英語教育を研究主題として挙げ、年間7回以上の授業研究会を行い、事前検討会・事後討議会等を通して教員の資質向上を図る。また、週3回15分のモジュール学習を含めて小学校1・2年生は45時間以上、3・4年生は60時間以上、5・6年生は70時間以上、英語教育を実践する。小中連携を進めるため、中学校教員が小学校の英語授業に関わり、9年間を見通した年間指導計画を作成する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

いまみや小中一貫校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>① 道徳教育全体計画別葉を作成し、すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また、道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し、実践報告をもとに研修会を今年度も実施する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 小中合同の学校行事を実施し、児童・生徒アンケートの「学校生活で、自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を75%以上をめざす。 (マネジメント改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【道徳教育の推進】</p> <p>道徳教育全体計画別葉の内容項目を全学年において作成し、実践の在り方を研究する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 • 実践報告を中心とした、研修会を実施する。</p>	
<p>取組内容②【国際理解】</p> <p>世界の文化を知り、日本の文化を学び、違いを認め合い、平和の尊さを自らのもとのとする。 (グローバル化改革関連)</p> <p>指標 • 年度末の児童・生徒アンケートにおいて「世界や日本の文化を学び、違いを認め合うことの大切さがわかった」の肯定的な回答の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【自他の違いの認め合い、支え合う意識の育成】</p> <p>異学年交流・活動を通して互いに認め合い、支え合う集団を育成する。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 • たてわり活動を生かした、集会活動や交流活動を実施し、児童・生徒アンケートの「ペア学年と交流して楽しかった」の質問項目の肯定的な回答の割合を75%以上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小学生の部活動参加の充実を図る。 • 小中連携した防災教育として、区役所、地域等と連携した防災訓練を年1回以上実施する。 	

取組内容④【人権を尊重する教育】

ユニバーサルデザインの視点で教室環境や授業を見直し、学校のユニバーサルデザイン化の在り方を検討・共通理解する。 (カリキュラム改革関連)

- 指標**
- ・ 児童・生徒アンケートで「授業がよくわかる」の質問項目の肯定的な回答の割合を70%以上にする。
 - ・ 授業研究会において、ユニバーサルデザインの視点で検討・討議を行うようとする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

いまみや小中一貫校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>① 毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において、小学校は走力に関する結果を、中学校はすべての結果を大阪市平均値に近づける。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 年度末の児童生徒アンケートにおいて、「起きる時間や寝る時間が決まっていて、健康に気を付けて生活をしている」に対して、肯定的な回答の割合を50%以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【体力向上への支援】</p> <p>体育の授業の進め方、休憩時間の過ごし方等について、小中連携して取り組みを研究し、実践する。 (ガバナンス改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の授業において、小学校は「走」の測定を行い、比較分析し、改善を行う。 ・ 体育の授業において、中学校は「走」「跳」「投」の測定を行い、比較分析し、改善を行う。 	
<p>取組内容②【体育的活動の充実】</p> <p>運動部の活動の活性化や児童集会などでの運動的な取り組みを充実させ、運動に親しむ機会を増やす。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の児童・生徒アンケートで「体を動かしたり運動したりすることが好きである」の肯定的回答を60%以上にする。 	
<p>取組内容③【健康な生活習慣の確立】</p> <p>児童・生徒の委員会活動を中心に「健康に気を付けて生活をする」ことの大切さについて日常的に呼びかける。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の児童・生徒アンケートにおいて、「起きる時間や寝る時間が決まっていて、健康に気を付けて生活をしている」に対して、肯定的な回答 	

の割合を50%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点